

ジェンダー視点から見る中国「剩女」の晩婚化

一人っ子政策と家父長制が都市部女性へ与える

影響に関する考察

WANG Xueting

研究背景

近年、晩婚化や非婚化が急激に進んでいる。「皆婚社会」だと思われている中国であっても若者たちは結婚を遅くする傾向がある。さらに、生涯未婚の人も多くなっている。中国では、1990年から、平均初婚年齢は男女とも上昇し続け、2010年をピークに、男性は25.86歳で、女性は23.89歳となっている。とくに、都市部で住んでいる人の平均初婚年齢という点、2010年時点で男女それぞれ、26.92歳、25.07歳となっている。全国の平均初婚年齢と比べると、約1歳高い。中国において、都市部を中心として、晩婚化が進み、これからも進行し続けると予想されている。

晩婚化現象とともに、生まれている言葉もあって、それは「剩男」「剩女」のことである。主に都市部の未婚男女を指している言葉であって、さらに、男性より女性のほうがよく言われている。なぜ女性はより多く言われているのか。それは現代女性が晩婚あるいは非婚を選択する可能性がより高いのだろうか。それとも、文化的な影響、近代的な家父長制的な考え方(男性優位)などの影響によって、女性はよりストレスがかかるのか。

さらに、結婚や出産を検討する際に考えなければならないことがある。それは中国特有の政策、一人っ子政策である。子供を産むことは国によって制限されることは人権の侵害と言われている論争の中で、女性は多くの子供を産まなければならないという考え方から解放されたと主張する人もいる。果たしてそれは現代結婚や出産を巡る女性にどのような影響を与えているのか。また、今、「剩女」と呼ばれている女性は大体この政策が実施された後、生まれた女性で、その中で兄弟のいる女性と一人っ子女性の2種類がある。彼女たちには多少違うところがあると考えられる。また、同世代の男性との間にも違うところがあると推測できる。これも現代女性の急激に進んでい

る晩婚・非婚化現象とは多少関連があると考えられる。

したがって、本研究では一人っ子政策のもとで育った女性(一人っ子女性、非一人っ子女性)はそれぞれどのような家族関係で育てるのか、どのように結婚のことを考えるのか、またどのように配偶者の選択基準を決めるのかなどをインタビューで確認する。これを検討することを通して、家父長制が一人っ子政策の下で育てた一人っ子女性にどのように影響しているのかを明らかにしてみよう。

研究内容

第1章では、「剩女」に関する事実検討を行って、主にその定義について分析する。それに、先行研究で「剩女」について指摘されている特徴を主にデータによってもう一度確かめる。

次に、第2章では「剩女」、いわゆる女性の未婚・晩婚化に関して東アジアの家父長制の影響を論じる先行研究を説明する。くわえて、「剩女」が育てられた背景としての一人っ子政策の内容やそれが実施された後の中国での社会変化(家族形成の変化)を説明している。続いて、家父長制社会にこのような強制的な政策が施行された後、家族に対する「孝」や「祖先・子孫崇拜」などを説く儒教的家族主義の伝統、家父長制的な家制度(男性優位)、現代的な家父長制(性役割支配)という伝統的な考え方に強く影響されている中国家庭はどう変わっているのか。それについては、データや一人っ子家庭と複数の子供を持っている家庭と比較しながら論じる。

続いて、第3章では上述の家父長制と関連づけて、家父長制的な規範は一人っ子女性に与える影響が比較的強くないため、一人っ子女性は結婚についても自主性を持っていて、より結婚を遅くしようとしているという仮説を立てる。

第4章では、上述の仮説を確かめるために一人っ子と兄弟を持つ男女にインタビューして、その結果を説明している。

最後に、第5章では、インタビューの分析を通じて、結婚・出産に対する価値観は一人っ子娘と兄弟がいる女性の間でどう違うか、結婚における親の介入、プレッシャーなどの対比を明らかにし、またそこから生じる問題を推察する。一人っ子家庭で育てられた女性は親からちやほやされて、子供の多い家族より経済的に余裕を持っているから、より教育年数が長くて、相対的に高学歴を獲得しやすく、高い収入も手に入れる可能性が高い。平均水準より高い収入を得る高学歴女性はせめて自分より上にあるという相手の経済力への期待もある意味で配偶者の選択基準を高めた。核家族中でのより規模が小さい3人家族の関係はより親密で、親と早く別れたくない、また親もそんな気持ちを持っている。

要するに、親から結婚の圧力はそんなに高くないこと、また、このような家庭の中では自主性が重視され、親の意見を聞く一方、自己意志を主張するものも考えられる。他方で、グローバル化に

つれて、次第に留学に行く人が増加する中で、女性もかなり多い。その中で、一人っ子ではない女性はいさい時から家父長制的な規範における伝統的な考え方に影響されるが、留学生になって他国の思想に触れるとともに、結婚・出産に対する考えがかわって、さらに、独身主義になる女性も考えられる。